

# Libra | on

# vol.43

<http://www.libra-sc.jp>

りぶらいおん

特集：「困ったときには図書館へ」開催報告

8/18 「子育てと図書館」・10/2 「市民活動と図書館」

11月12日・13日  
「りぶらまつり」を  
開催しました!!



- りぶら中央図書館情報
- 私の一冊 vol.38
- 目の不自由な方への  
接し方とガイドについて
- 「りぶらまつり 201」開催報告
- 「困ったときには図書館へ」最終回のご案内

外国人が  
日本語の歌を歌う  
のど自慢大会 vol.7  
2017年2月5日(日)  
出演者受付中!!



  
岡崎市図書館交流プラザ

図書館交流プラザ(愛称:Libra)は、「図書館」「活動支援」「文化創造」「交流」の4つの機能で構成されています。りぶらサポータークラブ(LSC)は、Libraの施設活用をサポートする活動をしています。





## 「困ったときには図書館へ」開催報告

### 8/18「子育てと図書館」・10/2「市民活動と図書館」

2016.7.1  
th  
ANNIVERSARY  
KAZAKI  
岡崎市制施行100周年

「新世紀岡崎チャレンジ100」事業企画『困ったときには図書館へ』（全6回）講演会の、8/18（3回目）と10/2（4回目）に開催された内容の一部を報告します。

### 8/18「子育てと図書館」

今回は、飛鷹氏の講演の前に、飛鷹氏と神代氏のお二人による読み聞かせをしていただきました。まず、『ぞうくんのさんぽ』をお二人で。次に飛鷹氏の『きゃべつくん』と神代氏の『だるまちゃんとてんぐちゃん』でした。

飛鷹氏の読み聞かせのコツは、ストーリーよりインパクトや体を動かすことを意識して、一つのコミュニケーションツールとして本を使うということでした。またナンセンスな本など、お母さんの読みにくい物はお父さんの出番。神代氏からも「お母さんとお父さんで違った読み方いい。違うことに効果がある」というお話がありました。



### 飛鷹 正範 氏 「子育てと図書館」

私には子どもが3人いまして、3人目の子が生まれたときに育休（1ヶ月）をとりました。「イクメン」という言葉が使われだした時期ですね。その子が来年1年生になりますが、私はその後独立して、現在、「三



河子育てパパネット」「チーム子育て」「ファザーリングジャパン（東海地区講座の担当）」「すいか隊」に所属してNPOの支援などをしながら、大学・専門学校の非常勤講師をしています。

「三河子育てパパネット」は、パパ自身が楽しめる緩い会ですが、なかなか入ってくれる人がいません。男は義務感が強いのか、会社に入ると同じぐらいハードルが高く感じるようです。

大人になってからの友達は作りにくいものですが、パパサークルでのつながりは、様々な業種人がいて、よその子どもと、よその大人との関係、「斜めの関係」ができるのが魅力です。そして、ママに自由な時間のプレゼントができます。それに、ミーティングという飲み会でも家を出やすいんですね。

子ども向けだけのイベントでは私は楽しめなかったのが、「パパが楽しめるイベント」を意識して運営しています。「ミーティング」という飲み会で子育ての話をして、お父さんが中心の食事会（鍋、寿司など）もあります。色々な人が参加しているので、子どもたちにインドア・アウトドアのどちらの体験もさせてあげられます。また、赤ちゃんから中学生までいて、大きい子が小さい子の面倒を見てください。

「すいか隊」では、おもに広報誌の編集をしています。また、2014.8.15号の「市政だより」の「今こそ考えよう！男女共同参画」の特集で、インタビューが掲載されました。

[http://www.city.okazaki.lg.jp/shiseidayori/shiseiback26\\_d/fil/20140815.pdf](http://www.city.okazaki.lg.jp/shiseidayori/shiseiback26_d/fil/20140815.pdf)

妻の出勤時間が早いので、長期休みの学童用のお弁当は私が作っています。ちょっと前から、キャラ弁がはやっていますね。パパ友でも作っている人がいるので、僕もドクターイエローなど作ってみようかなと思いました。

でも、無理！キャラクターの顔の弁当もセンスがありませんでした。でも、普通の弁当でもおもしろくないし、たまにいいのができても、自分としてはおもしろくないんですね。そして、4年生の長男に「何が食べたい」って聞いたら、「駅弁が食べたい」と言ったので、海苔をきざんで「エキベン」という文字をつくり、しばらく「文字弁」を楽しみました。こういう悪ふざけが大好きです。

娘は中学生になりましたが、親離れ・父離れを危惧して、何とか時間を作って、6年生の年末に「パパと娘の二人旅」に出かけました。北九州行きの夜行フェリーで0泊3日の旅でしたが、瀬戸大橋をくぐるのが一大イベントで他にやることのない環境での娘との二人旅でしたが、実際いい思い出になりました。次は長男との二人旅を画策しています。

他市の図書館と比較しても、岡崎の子ども図書館は充実しています。



子どもの本は、読み継がれている本が多いので、私は、自分が本を買うときのショールームとして活用しています。

共働きと専業主婦は平成4年に逆転しています。社会や家庭のスタイルの違いで、どっちがいいというわけではありません。「子育て」のテーマで男性の私が講演する時代ですから、社会は相当変わってきたと思います。そして、働くママたちに、寄り添うことをしてほしい。大事なものはママのケアです。ママを抱っこしてあげられるのはパパだけだから。

そして、「イクメン」の時代です。頑張っちゃうパパのケアも必要です。気づけるのは家族だけなので、お互いにフォローが必要です。

子育てに関わるようになって気づいたことは、「子育ては期間限定」「子育てはいずれ終わる」ということでした。早く気づけば、早く向き合えます。子どもが子どもである時間は意外に短いんです。

- ・社会の変化が進んでいる。
- ・交流の場であるりぶらでできることはたくさんある。
- ・ワークライフバランスが大切。

今日の講座で伝えたかったことは、以上の3つです。

## 飛鷹 × 神代 対談：子育てと図書館

神代：図書館の利用について、もう少し詳しくお話を聞きたいと思います。

飛鷹：今はネットで何でも知ることができそうですが、信憑性はありません。本にはその信頼性があります。情報のデータベースとして使いこなしたいですね。

神代：子育て関連の本はママ向けが圧倒的に多いですね。お父さん側からの情報発信が足りないのでは？

飛鷹：お父さんが入りにくい場所なので、最近では男性向けの本も出ています。図書館に望むのは、パパサークルなどの情報を本棚の近くにおいてほしい、活動団体との接点になってほしいということです。

神代：子育てに限らず、お父さん自身が図書館を利用することが大事ではないかと思いますね。

飛鷹：図書館にはアイデアのヒントがたくさんあります。子どもと絵本を選ぶだけでも、生活や仕事に関係のある色々な情報が詰まっています。

『夫に死んでほしい妻たち』（朝日新聞出版）という本があります。お母さんたちが「してほしい」と、お父さん達が「している」ことのギャップは大きいです。また「パパのトリセツ」という本もあります。男って面倒くさいんです。

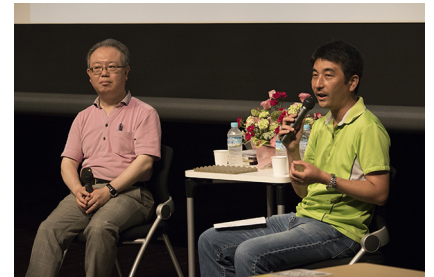
神代：子育て支援センターを図書館の近くに、という発想は？

飛鷹：岡崎の子育て支援センターは近くの保育園に隣接されて、りぶらより先にできていました。りぶらは子連れで来やすい場なので、子育て支援の機能がもう少しあればいいなあとと思いますし、りぶらも子育てに利用できる場であることを、もっと広報・周知できるといいですね。

神代：図書館には自治体が扱っている全ての行政分野の情報があるはずです。行政からの情報提供を一歩進めて、具体的な行政課題の解決への仕掛けをどうするか、公共図書館と自治体の各部局とのコラボレーションや相乗効果を期待したいですね。

Q：シングルファザーやシングルマザーへの対応はいかがですか？

飛鷹：夫婦の1/3は離婚している現状なので、身近にいるはず。片親の子育てはもっと大変なはずですが、可視化されていないのではないかと思います。



神代：困っている人たちには、なかなか情報が届かないものです。彼らが困ったときに図書館に行くということをおいづくか？ そういう方々に対して、選択肢の一つとして「図書館もあるよ」と伝え続けることが大事です。

飛鷹：「相談に行く」というのはハードルが高い。相談の前にハードルの低い図書館を利用してほしいですね。

Q：図書館の機能として、人につなげるという2階部分がないのでは？

飛鷹：本の中にメッセージを入れるとか、コーナーに掲示するとか、本の近くに情報を置くことが必要だと思っています。

神代：図書館で子育て支援センターのイベントを行うとか、関連資料を提供する等の仕掛けがあるといいですね。本のプロ（司書）として多様な情報提供をするということです。

参考動画：サイボウズ  
「働くママたちに、よりそうことを。」  
<http://cybozu.co.jp/company/workstyle/mama/>

## 10/2 「市民活動と図書館」

三矢 勝司 氏

「市民活動と図書館」



現在、岡崎市には市民活動登録制度というものがあり、555 団体+町内会が登録されています。そして、その方々に対する市民活動センターの支援メニューには、「活動コーナーの利用と作業機材の提供」「情報コーナーの利用」「活動の相談窓口」「活動支援の各種講座の開催」「ボランティアマッチング（まち人バンク 160 人登録）」「LSC の事務局支援（りぶら講座の受付など）」があります。

「まち人バンク」は市内全域を対象にしていますが、LSC のりぶらでのボランティア募集が、ボランティアマッチングの着火剤になりました。これまでは福祉関係のシニアボランティアが多かったのですが、図書館と一緒にあることで、若いボランティアが増え、他の事業にもつなげやすくなっています。

岡崎市が中心市街地活性化施設のメインコンテンツを図書館にした理由は、図書館が「1㎡あたりの来館者数が最も多い公共施設だから」でした。このような理由から、昨今、中心市街地のまちづくりに図書館を置くのは、全国的なブームとなっています。

そんな中で、「りぶら」は全国的にも来館者数の多い施設です。りぶらでは、市内で最初の市民参加プロジェクトとして、「生涯学習の活性化拠点」

「中心市街地の再活性化拠点」という、2つの目的を持って開館しました。

当時の一番の参考図書が『未来をつくる図書館—ニューヨークからの報告—』（菅谷 明子：岩波新書）で、そのメッセージから、りぶらが目指したものが「困ったら図書館へ行こう」「災害時のボランティア拠点になろう」「ビジネス支援」「個人の力を伸ばし、コミュニティを活性化」の4つでした。

私は、りぶらの設計ワークショップのコーディネーターとして参加しました。ビスタラインの保持や北側の入り口の検討で、図書館管理と利用者・設計者それぞれの立場での主張があり、市民参加のワークショップの場があることで、それぞれに意見が違ってくるということがわかりました。2007 年からの「りぶらサポータープロジェクト」では、新しい図書館で何ができるのか、何をしなければならぬかを参加者と一緒に考えてきました。利用者目線の空間利用は、現在の運用と活用につながっています。

りぶらの市民参加の成功は、その後の市民参加事業に影響しています。市内の多くの市民が、同じようにいろいろな地域に関わりだしました。また「りぶらサポータークラブ」の在り方は、塩尻市の「エンパーク」や岐阜市の「メディアコスモス」など、市外のプロジェクトにも影響しています。

「市民活動と図書館」という視点から見ると、図書館があることで、様々な人が市民活動センターを利用しています。

まず、来館者が多いのでチラシがはけます。同じ内容事業やイベントでも、他の会場とは来場者数が違います。また、中学生の間では「りぶらデビュー」（高校生になったらりぶらに行ける）というブームもあります。

図書館（りぶら）とのジョイント

イベント例（市制 100 周年事業から）として、以下のものがあります。

1. 石井桃子映画上映会&トークイベント（ホール利用）、絵本の展示
2. 徳川家康公の遺言展示会（ギャラリー利用）
3. 神明宮大祭 PR（お城通り展示会・むかし館利用・駐車場に山車展示）
4. レファレンスコーナーの利用で、イベントが充実

以上のことを踏まえ、りぶらは「図書館+市民活動センター=課題解決型図書館」として機能しているのではないかと考えています。今日の話をもとめると、次の3点になります。

1. 市民活動の担い手の多様化効果（図書館は市民活動センターの利用者層（中高生）の幅を広げている）
2. 市民活動の参加者の増加効果（単位面積当たりの集客効果が大い）
3. 市民活動の質の向上効果（図書館で知恵の継承が実現する）

そして、市民のひとり一人が、もっと意識的に利用し合うことでそれぞれの機能が向上し、未来をつくる図書館になっていくのではないかと考えています。

あなた
+
図書館（ギャラリーを含む）
+
りぶらサポータークラブ（りぶら参加）
+
市民活動センター（まちづくり参加）
+
未来をつくる図書館

### 三矢 × 岡本 対談：市民活動と図書館

岡本：全国の施設を見学してきた図書館コンサルタントとしては、「りぶら」は特徴的・示唆的な施設だと思います。岡崎の文化力・経済力・市民力も誇っていいですね。複合施設といっても、生涯学習センターと

の複合が多く、市民活動センターが入っているのは案外少ないんです。

ワークショップの開催も画期的で、建築家と市民の間にワークショップの専門家であるコーディネーターを入れたことを評価しています。また、LSCはこれまでの図書館友の会と違い、要求と対立ではなく提案と協調を基本にしているということも、「りぶらハック事件」の解決への役割を果たしたという事例から、高い市民力を持っていると言えます。

三矢：ワークショップでは、市民参加の専門家に予算をつけるという行政の判断がありました。そして、ソフトが大事という市民の思いがあって、普通は設計ワークショップだけで終わるところ、りぶらでは引き続き、運営計画のワークショップが継続されました。建物がまだできていない状況で、いろいろな活動案が出てきました。運営のワークショップがあったからこそ、LSCが組織できたということですね。

岡本：施工から開館までの2年間に、何もしなければ中身の無い箱になるのは当然。運用に成果を求めないのは役所としては勇気があることです。LSCも、恵まれているのではなく、実績を積んで委託料を勝ち取っている。岡崎スタイルとして世に出していくべきですね。「公共施設をどうやって自分事にしていこうか」という考え方を発信することです。

Q：活動そのものは図書館の資料としてどのように残されているのか？ 仕組みと技術的な問題はどうか？

三矢：市民活動センターの窓口で、ご案内や紹介はできます。現状は、その情報は図書館にはなく、図書館の機能とは連動しておらず、情報共有はできていません。

岡本：図書館の基本的役割に地域資料収集がありますが、図書館によって温度差もあります。岡崎に関する物をどこまで集めるのか？ それは、次世代に残していく資料として、本来業務として取り扱わなければならないものです。

資料や情報の収納のためには、職員が市民活動センターやOka-Bizに、毎日ちょっと顔を出すだけで違います。その努力はしてほしいですね。図書館がきちんと資料の収納機能を果たしていれば、どちらの組織にとっても情報の収集と保存を分けることができるので、便利です。受入処理をした資料は簡単に捨てられないし、他市から来た人も利用しやすい。

収集資料が歴史だけではダメなんです。市民活動や企業活動などの多様性が必要で、図書館の集客力にマッチします。そして、図書館にとって複合施設のバックアップ機能を持つことは、各部局の役に立つことを証明し、図書館自身の強化につながります。



三矢：図書館のレファレンスを使うことが市民の仕事とっていいですね。市民活動センターの職員もいろいろ聞かれることで情報をストックし、経験を積んで活かしているのは、レファレンスと同じです。

岡本：市民は遠慮なく図書館に求めていくべきですね。レファレンスで素晴らしい回答ができるかどうかは、市民のレベルにイコールします。レファレンスを使いこなす市民が、レファレンスのレベルを上げます。

Q：「〇〇と図書館」というテーマですが、図書館の影が薄いと感じていますが、他の活動の動きが凄すぎて、図書館が影に隠れているのでしょうか？

戸松：この講座の最終回、2月に図書館長を交えた講演を行う予定です。そのための5回の講演会を行っている最中ですので、引き続きご参加いただければと思います。

他市図書館長：図書館の運営で「りぶら」はとても参考になります。館長の情報交換の場を持ちたいと思っています。

岡本：岡崎は一部業務委託を取り入れているので、そこが他の図書館と違うのかということが気になります。同じ組織の中でも部署が違っていると縦割りになりがちなので、民間事業者を入れて動くケースでは、どうなのかと。

岡崎に求められるのは、先駆者としてどう解決したらいいのかという知見です。実験者で有り続けているという点が、末端より評価されるのではないかと思います。横の連携組織を作るのは王道ですが、成功例は今のところありません。コミュニケーションには、主要メンバーと一緒にご飯を食べる時間を持つことが重要ですね。サポータークラブがお招きしてはどうですか。

三矢：ご飯を食べる空間を変えるといいのはいいかもかもしれませんね。

杉浦：今年開館8年目にしてやっと、担当者レベルの横断会議ができましたが、何も実っていないのは、一緒にご飯を食べていなかったからかもしれません。課題をいただきました。

※5回目(12/2「病気と図書館」)の報告は、3/1発効予定の次号に、最終回(2/19「図書館の未来」)の報告は6/1号に掲載する予定です。



## りぶら中央図書館情報

## 「進路コーナー」ができました！



2階ティーンズコーナー 棚番号 60

進路を考える際の参考としてもらえるよう、中央図書館2階ティーンズコーナーの一角に『進路コーナー』を作りました。『進路コーナー』には、進路や職業に関する本だけでなく、高校や大学の案内パンフレットも置いてあります。どうぞご活用ください。

高校 案内パンフレット



大学 案内パンフレット



担当：中央図書館 資料提供サービス班（電話 23-3115）

## 中央図書館 1階レファレンスカウンター「レファレンス事例集」

親族の正式名称は意外と知られてなく、難しいですね。  
今回は家系図を作成する際にも役立つ事例をご紹介します。



質問	おばの人からみると、おいの子どもは何と呼ぶのか。
回答	<p>【資料1】 p 609-610 に親族の項目あり。「親族／親族と親等」の表の中に「姪孫」の記述あり。（「姪孫」＝読み方「てっそん」）</p> <p>【資料2】 p 668 に「姪孫」の項目あり。意味として「甥の子。兄弟姉妹の孫。又甥」とある。</p> <p>【資料3】 p 1943 に「又甥」の項目あり。意味として「甥の子。同義語＝姪孫」とある。</p> <p>【資料4】 p 30-31 に「親類の呼び名と親等がわかる一覧表」あり。 兄弟姉妹の男の孫は「又甥（姪孫）《またおい（てっそん）》」 兄弟姉妹の女の孫は「又姪（姪孫）《まためい（てっそん）》」とある。</p>
キーワード	「親族」「姪孫」「甥」「姪」
参考資料	<p>【資料1】『日本大百科全書 12巻』小学館／1986年／参考 031ニ12</p> <p>【資料2】『日本国語大辞典 第9巻』小学館／2001年／参考 813.1ニ9</p> <p>【資料3】『大言海』大槻文彦／著／富山房／1982年／参考 813.1タ</p> <p>【資料4】『なぜいま家系図を作るべきなのか?』岩本卓也／監修／樫出版社／2013年／288.2ナ</p>

## 岡崎むかし館に新たな展示造作物「おかざき玉手箱」を設置！



〈おかざき玉手箱〉

過去と今をつなぎ、何が出てくるかわからない玉手箱のような箱という意味が込められています。  
※ クイズや資料は入替をし

当館の市制100周年記念事業の総仕上げとして、ちょっと変わった展示造作物「おかざき玉手箱」を11月に設置しました。市民の皆さんから収集した岡崎の古い写真を活用したクイズの扉など、誰でも自由に開け閉めして、楽しみながらふるさと岡崎に関心を持っていただけるようになっています。

他にも、出入口の看板やノゾキ窓式にした展示ケースなど、ミニリニューアルした常設展示をご覧ください。

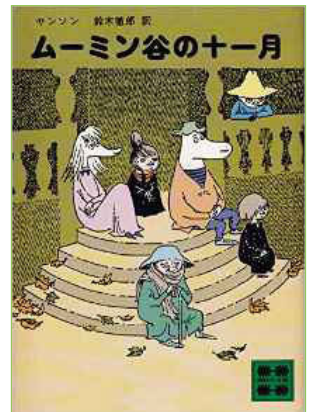
担当：中央図書館企画班（電話 23-3167）



## 私の一冊 vol.38

### 「ムーミン谷の十一月」

トーベヤンソン：著 講談社



藤岡 典一

(ふじおかのりかず)  
NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた職員として新世紀岡崎チャレンジ100事務局勤務。プロジェクト実施を様々な面でサポートし、一緒に来年3月まで駆け抜けたいと思います！

日本では、誰もが知っているかわいいキャラクターとして人気の「ムーミン」。「私の一冊」はその原作童話の最終巻にあたる作品です（以下、ネタバレを含みますのでご容赦を！）。

作品との出会いは、小6の時にテレビ放送されていたテレビアニメがキッカケです。それからムーミンのファンになり、学校の図書室で全集を順番に借りて読んでいきました。遅読なので結構頑張って読んで、最終巻は中学生になってからだった気がします。

作者のトーベ・ヤンソンは、フィンランドの画家・小説家・その他いろいろ。挿絵も全て本人が描いて、一昨年生誕100周年を迎え、日本でも記念の展示会が全国を回り盛況でした。挿絵を見るだけでもワクワクして、想像が広がります。

さて「ムーミン谷の十一月」の物語ですが、物悲しい晩秋のムーミン谷に6人の人物が集まってきます。夢や憧れを投影して、はたまた様々な理由でムーミン一家に会わなくちゃと思いついてやって

くるのですが、肝心の一家が屋敷にいません。なんとこの本には、「あのムーミン一家」が登場しないのです。最終巻なのに！

奇妙な共同生活が始まりますが、感情の浮き沈みやすれ違いなど、不在のムーミン一家を巡ってなかなかうまくいきません。彼らにどんな展開が用意されているか・・・は、実際に読んでいただきたいです。結果、ムーミン一家に会う必要がなくなった人物が、一人また一人とムーミン谷を離れていきます。こう書くと暗く喪失感漂う印象を持つかもしれませんが、読後はむしろすがすがしく感じます。

子どもの頃は正直よく意味が分かっていなかった作品ですが、大人になってから読むと細やかな描写に気づいたり、登場人物の心情に納得できたり・・・。今では作者が自身と読者が、ムーミン一家とその物語に一旦さよならをするために作られた作品だと考えるようになりました。読む度に新たな発見や醍醐味を見つけて感動します。これからも時々読み返したい一冊です。

りぶらサポータークラブでは、「りぶらまつり実行委員会」を利用して、防災やバリアフリーに関する講座などを開設し、参加団体の皆様の意識を高め、来場者の皆様により安全な場を提供できるよう努めています。

## 目の不自由な方への接し方とガイドについて

10月2日（日）午前 3F 会議室  
「りぶらまつり 2016」実行委員会「バリアフリー講座」  
岡崎ひとみ会 白井敏彦

私たちは必要な情報の内 8 割以上を「視覚」から得ていると言われています。視覚障がい者は、この視覚からの情報を全く得られないか、制限された不自由な中で生活をされています。

視覚障害＝情報障害（目の代わりとしての援助が求められます）

[視覚障がい者の状況]平成 18 年 7 月時点

18 歳以上の視覚障がい者	31 万人（60 歳以上が全体の 70%を超える）
18 歳未満	4900 人（推定）
岡崎市	約 700 人

[視覚障害等級と分布：一部抜粋]

	視力の障害	視野の障害	人数（割合）
1 級	両眼の視力の和が 0.01 以下	—	110,000 人 (35.5%)
4 級	両眼の視力の和が 0.09 以上 0.12 以下	両眼の視野がそれぞれ 10 度以内	29,000 人 (9.4%)

※ 同じ 1 級でも見え方は様々：光を全く感じない人や光や明暗がわかる人、目の前の手の動きがわかる人等。

※ 100 人の視覚障がい者がいたら 100 通りの見え方がある。

「視力障害」・「視野障害」・「光覚障害」・「色覚異常」等、援助の仕方も様々です。

### 【白杖の役割】

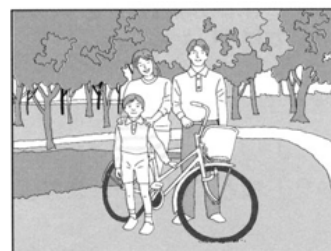
- ① 路面の変化や情報を得る（凹凸・段差・上り下り坂等）。
- ② 障害物から自分の身体を保護する。
- ③ 周囲の人に視覚障がい者であることを知らせる（シンボル）。

（参）「白杖 SOS シグナル」困った時、白杖を垂直に頭上約 50 センチ上方に上げる。

※ 視覚障がい者にとって「白杖」は非常に重要です。私たちが白杖を持って引っ張ったり、持ち上げたり、取り上げたりしないでください。

### 【ガイドの役割と基本的考え方】

ガイドの役割：視覚障がい者が安全に、安心して移動等するためのサポート。一方的に「……してあげる」こととは違います。自分の考えを押し付けしないでください。「思いやりの心」で「安全第一」に接してください。



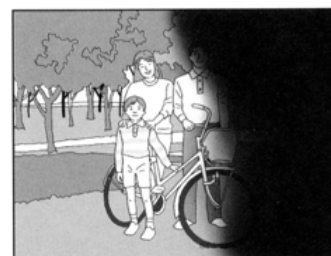
正常



中心暗転



正周辺視野狭窄



視野欠損



### 【視覚障がい者を街で見かけたらどうする？】

私たちから「声かけ」をします（援助する意思を伝えます）。

※ 視覚障がい者の「斜め前方」から、「〇〇です。こんにちは」と、声をかけながら軽く手の甲や体に触れ、誰に声をかけているか、分かるようにする。「どちらに行かれますか？」「何かお困りですか？」「何かお手伝いしましょうか？」など。

※ 後方から声かけをして振り向かれると、その後の方向が分からなくなる恐れがあります。

※ 危ない時でも、黙って腕を引張ったり、押したり、白杖を引張ったりしないでください。声をかけながら軽く体に触れて、動きを止めてから状況を説明します。

※ 騒音の激しいところでは耳からの情報が得られないため、私たちの声かけが必要です。

### 【ガイド（手引き）時にはいけないこと】

1. 腕や服を引張って動かす。
2. 白杖をつかんで動かす。
3. 背中を押して動かす。
4. 両手を持って引く。
5. 空間に放置する。

### 【説明の仕方】

※ 必要なポイントからゆっくり説明し、理解できているか確認する。

※ 「これ」「あそこ」「そっち」では視覚障がい者の方には分かりません。視覚障がい者から見て、「前」「後ろ」「手前」「奥」「右」「左」「右〇メートル」と具体的に説明します。

※ 物の配置の説明：別紙「クロックポジション」参照

### 【ガイドの仕方】：別紙「ガイドの基本」参照

※ 視覚障がい者の横に立ちます。左右どちらに立つかは視覚障がい者に確認します。

※ 声をかけながら手の甲や肘を接触させ、「ガイド者の肘の上」を軽く握ってもらいます。

※ 身長差がある場合は、ガイド者の「手首」などを握ってもらったり、「肩」に手をかける方法もあります。

### <ポイント>

1. ガイド者は視覚障がい者の「半歩前」に立ちます。
2. 歩く速さは視覚障がい者に合わせます。
3. 常に「二人分の幅」と高さに注意します。  
ガイド者は二人分の幅を常に意識し、頭の上から足元まで注意しながらガイドします。
4. 階段や段差には「直角」に近づき直前で止まります。  
「上り階段」か「下り階段」かはっきり伝えます。  
階段の「終わり」も伝え一旦止まります。

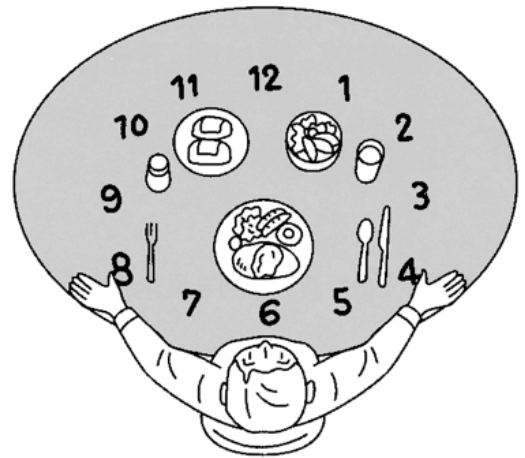
### 「クロックポジションによる説明」

時計の文字盤におきかえて物の位置を説明します。

視覚障がい者側手前を「6時」として、

「11時の位置にパンがあります」

「2時の位置にお水（コップ）があります」



「お皿の手前側に、サクランボがあります」

「8時の位置に、リンゴがあります」



視覚障がい者の手を直接物に導き、位置を知らせる方法もあります。

## 【盲導犬をつれた視覚障がい者】

※ そっと見守る。  
※ 困っている様子の時は、視覚障がい者に声かけをしてください。盲導犬は信号の判断はできません。「青ですよ」と視覚障がい者に声かけも必要です。

※ 次のことはしないで下さい。

- ・盲導犬に声をかける
- ・口笛を吹いたり手をたたく
- ・前からじっと見つめる、触れる、食べ物を与える等

障がい者も、視覚障害になった時期などによって、ガイドを受ける「慣れた方法」を身につけていたり、逆にガイドされることに不慣れた視覚障がい者もみえます。必ずこうしなければいけないということではありません。その人に合わせたガイドをする必要があります。

## 【白杖SOSシグナルマーク】

※ 社会福祉法人 日本盲人会連合推奨マーク  
※ 2015年10月15日 内閣府ホームページ内「障害者に関するマークについて」に掲載



### 「ガイドの基本」

#### (1) ガイドの基本形

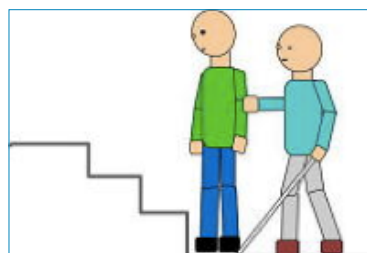
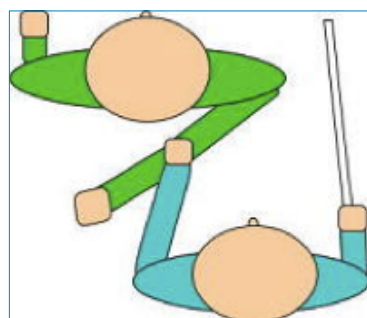
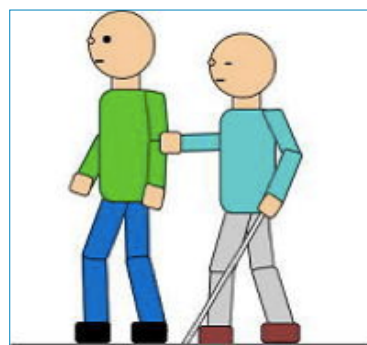
- ・視覚障害者の半歩前を歩く
- ・腕は力を抜いて自然に歩く（脇をあけない、腕をふらない）
- ・白杖を持っている人と反対側を歩く
- ・二人分の幅を確保する
- ・歩くスピードは相手に合わせる
- ・頭上の障害物にも気を付ける

#### (2) 狭いところを通るとき

- ・腕を後ろに回して前後一列に並ぶ（一人分の幅になる）
- ・狭くなることを言葉で伝える
- ・ゆっくり歩く

#### (3) 階段や段差

- ・段差に直角に近づく
- ・段差があること、上り下りかを伝える
- ・段差の直前で止まる
- ・段差の始まりを確認してもらう
- ・視覚障害者の1段上（下）を上（下）がる
- ・上り（下り）終って止まる



# りぶらまつり 2016 レポート



## りぶらでつながりめぐ

11月12日(土)・13(日)「りぶらまつり2016」が開催されました。従来からのテーマである「新しい出会い」「新しい学び」に加え、昨年「誰もが安心して参加できるまつり」のために実行委員会に取り入れている講座では、「目の不自由な方への接し方」を学びました。昨年の「耳の不自由な方への接し方」の実践として、今年も各催事で筆談をお願いしていますが、ところどころで筆談をする姿を見かけました。少しずつ根付いているようですね。

例年人通りの少ない場所がある課題も、ホワイエをホールからの順路にして必ず通るようにする、創作室の通路案内など、少しずつではありますが年々試行錯誤をしていますが、参加団体からも、同じ種類の催事どうして連携して集客をする動きもみられるようになりました。このような動きがあちこちで起こってくると、さらに「自分たちで作り上げるまつり」になるのではないのでしょうか。また、お互いの開館以前からの交流がある、岐阜メディアコスモスからの参加もあり、公開録音が行われました。

50団体57催事で賑やかに楽しく行われたまつりではありますが、実行委員会や当日の運営のあり方、自分たちが作り上げるという意識の持ち方など、次回も今年以上によいものにしていくための課題もあります。実行委員全員で考え実践する、いつまでも成長し続けるまつりでありたいと思います。



## 【りぶらまつり2016の記録】

来館者数	12日	7,399人
	13日	8,122人
	合計	15,521人
プログラム数		57企画
青空FOOD 広場出店者数		9店
実行委員団体数		50団体
実行委員参加スタッフ数		508人
ボランティア数		19人
スタンプラリー参加者数		1,400人
寄贈景品		6,062点
りぶらグッズ景品		285点
「りぶらいおん」おめん配付数		350枚
6/14 説明会参加人数		33人
実行委員会参加者人数	① 7/31	: 49人
	② 10/2	: 49人
	③ 10/30	: 51人







6回連続  
シリーズ講演  
最終回!

# 困った ときには 図書館へ

解決の第一歩は図書館にあり!

そもそも だれに なにを 聞けばいいのか わからない。  
どこで どうやって 調べたらいいのか わからない。  
そんなときこそ! 図書館に来ちゃえばいい。

テーマ

## 『図書館の未来』

図書館長と著者による  
図書館活用の最先端トーク 対談 3 時間!

2/19 日 pm.1:30 - 4:30  
りぶら 3F 会議室

市民参加型・途中休憩あり

無料

託児:無料  
(5名まで)  
申込みは  
1週間前まで



水越克彦

岡崎市立中央図書館館長



神代浩

文部科学省科学技術  
・学術総括官兼政策課長



岡本真

アカデミック・リソース・  
ガイド株式会社 代表



戸松恵美

りぶらサポーター  
クラブ 副代表

【主催】りぶらサポータークラブ 【協力】岡崎市立中央図書館

市民プロジェクト支援事業「新世紀岡崎チャレンジ100」

〒444-0059 岡崎市康生通西4丁目71番地  
岡崎市図書館交流プラザ市民活動センター内

電話: (0564) 23-3114 ファクス: 23-3142  
携帯電話: 070-5333-1842 (戸松)

ホームページ: <http://www.libra-sc.jp/>  
メール: [lsc-office@libra-sc.jp](mailto:lsc-office@libra-sc.jp)

Libra | on vol.43 2016/12/1 発行 2008/11/1 創刊 ◆編集・発行:りぶらサポータークラブ  
〒444-0059 岡崎市康生通西4丁目71番地 岡崎市図書館交流プラザ市民活動センター内  
TEL/0564-23-3114 FAX/0564-23-3142 lsc-office@libra-sc.jp <http://www.libra-sc.jp>  
携帯電話: 070-5252-7263 / 070-5333-1842 月・火・木・金: 13:30 ~ 16:30

そうだ!りぶらをサポートしよう!  
(1)活動サポーター(登録のみ)  
(2)賛助サポーター(年会費)2,000円  
随時、ご寄付も受付ています。